

取組事例

津波被災からの復興と持続可能な循環型地域社会の実現



ブドウ栽培の上に設置される
太陽光パネル



太陽光発電設備全体像



支柱の一部に木材を使用

<施設概要>

- 事業実施主体：陸前高田市営農型再生可能エネルギー検討協議会
(岩手県陸前高田市)
- 発電設備：営農型太陽光発電
- 発電出力：173.25kW
- 発電電力量：287,000kWh/年
- 発電設備下部の農地：約30a（醸造用ブドウの根域制限栽培）
- 建設費：9,600万円
- 運転開始時期：令和6年8月

<取組内容>

- 東日本大震災の津波の被害を受けた県立病院跡地の活用に向けて、全国に飲食店やお弁当宅配を展開するワタミグループが中心となり陸前高田市で農業のテーマパークの開園を検討。土地の状態が良くなくても実施できる農業を考え、根域制限栽培でワイン用のブドウを栽培する案に行き着いた。
- 当初は農業者も営農型太陽光発電には懐疑的であったが、協議会を設立し先進事例を視察することで、理解度が徐々に高まっていた。
- 営農型太陽光発電の下部農地では、ワタミファーム陸前高田からスリーピークス（大船渡市）に委託し、ワイン用のブドウ（ヤマ・ソービニオン等）を栽培し、醸造、販売予定。
- 発電設備は農地の上では機械的に見えることもあるため、支柱の一部に木材を利用する上で、景観に配慮したデザインとなるよう心掛けた。
- 発電された電気は、魅力ある循環型地域づくりのためのエネルギー事業等を目的に市や地元企業が出資して2019年に設立した新電力「陸前高田しみんエネルギー」から市内の公共施設等へ供給している。



陸前高田市営農型再生可能エネルギー検討協議会・岩手県陸前高田市

